

9 研究者のアクセス手法 I

東京大学大学院経済学研究科教授
武田 晴人

1. 社会科学の実証研究と資料

東大経済学部創設時の教授高野岩三郎の言葉

統計学者であった高野は、「数字は黙して語らない、この数字を口を開いて社会の真実を語るのが統計的研究」との立場から、「最善の事実を尽くして最良の統計を作るのは統計家の任務。統計学者の任務は、統計を材料とし、これに工夫を加えて社会的真理を発見すること」と社会科学的研究の実証と統計家との役割との区別と、それぞれ仕事の重要性を指摘。

この言葉は、統計家をアーキビストに置き換えることができる。

2. 資料を探す——個人的に

テーマに沿って、図書館、文書館、史料館、企業等を探索する。

2次文献に関するライブラリアンの役割

1次資料に関するアーキビストの役割

乏しい官庁・企業等の一次資料保存意識とアーカイブ能力
筆写からマイクロフィルムへ、そしてデジタルカメラの画像に

3. 資料を集める——組織的に

アンテナを張り巡らす。

A. 研究グループの収集資料を相互利用可能な形に工夫する

産業金融史研究、南山城研究会の試み

B. 廃棄等の資料の受贈を受ける

経団連からの石川一郎文書

日本工業倶楽部、東洋経済、ダイヤモンド社からの営業報告書

東京三菱銀行からの横浜正金銀行資料

大蔵省からの照会——閉鎖機関整理委員会資料

山一証券の精算事務からの山一証券資料

4. 資料を整理する

研究者の協力

資金の確保

目録の整備

5. 資料を公開する

大学図書館などの専門図書館の横断的な協力関係

J-DAC(ジャパンデジタルアーカイブ)の試み

6. おわりに——資料を利用する者からもとめられるもの

学生たちのニーズ 二次文献への案内から

院生・教員たちのニーズに基づく収拾を組織の資産に

参考文献

武田晴人ほか編『日本経済史 6 日本経済研究入門』2010、東京大学出版会』所収の各資料論及び武田「経済史の技法」

東京大学経済学部資料室(および旧文書室、旧経済史資料分析室)が収拾整理した資料群については、

1. 浅田家文書仮目録 東京大学経済学部文書室 1986
2. 白木屋文書目録 東京大学経済学部文書室 1986
3. 『営業報告書目録』 経済学部図書館 1990
4. 浅田家文書仮目録<続> 東京大学経済学部文書室 1992
5. 営業報告書目録集成 第5集 はしがき 雄松堂 1995
6. 営業報告書関係の目録について 経済資料研究 26 1996
7. 石川一郎文書解説 雄松堂 2001
8. 工鉱業関係会社報告書 解説 雄松堂 2002
9. 横浜正金資料解題 丸善 2003
10. 国鉄再建監理委員会資料目録 解題 東京大学経済学部図書館 2004
11. 証券処理協議会資料 企業別資料編 解題 雄松堂 2006
12. 証券処理協議会資料 協議会資料編 はしがき 雄松堂 2006
13. 横浜正金銀行資料仮目録 東京大学経済学部図書館資料室 2008

などを参照

収拾された資料の概要は、http://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/?page_id=519 から見るができます。

平成26年度大学図書館職員長期研修

「B-(7) 研究者のアクセス手法 I」

——社会科学の分野から——

2014/7/4

武田晴人



参考文献

石井寛治・原朗・武田晴人編

『日本経済史 6 日本経済史研究入門』

東京大学出版会、2010

主要目次

- ・ 第1章 序論 〔座談会〕「体系的」経済史研究（高村直助・石井寛治・原朗・武田晴人）
- ・ 第2章 日本における西洋経済史研究（馬場 哲）
- ・ 第3章 数量経済史と近代日本経済史研究（斎藤 修）
- ・ 第4章 比較史のなかの日本の工業化（杉原 薫）
- ・ 第5章 近代日本経済資料論 1 統計（松田芳郎・木村健二）
- ・ 第6章 近代日本経済資料論 2 公文書 府県庁資料（沼尻晃伸）
- ・ 第7章 近代日本経済資料論 3 民間資料 商家史料（中西 聡）
- ・ 第8章 近代日本経済資料論 4 民間資料 企業史料（武田晴人）
- ・ 第9章 近代日本経済資料論 5 海外文書館資料（三宅明正）
- ・ 第10章 近代日本経済資料論 6 英国企業史料（奈倉文二）
- ・ 第11章 経済史の技法（武田晴人）

・ 東京大学経済学部資料室(および旧文書室、旧経済史資料分析室)が収拾整理した資料群については、

- ・ 1. 浅田家文書目録 東京大学経済学部文書室 1986
- ・ 2. 白木屋文書目録 東京大学経済学部文書室 1986
- ・ 3. 『営業報告書目録』経済学部図書館 1990
- ・ 4. 浅田家文書目録<続> 東京大学経済学部文書室 1992
- ・ 5. 営業報告書目録集成 第5集 はしがき 雄松堂 1995
- ・ 6. 営業報告書関係の目録について 経済資料研究26 1996
- ・ 7. 石川一郎文書解説 雄松堂 2001
- ・ 8. 工銀業関係会社報告書 解説 雄松堂 2002
- ・ 9. 横浜正金資料解説 丸善 2003
- ・ 10. 国鉄再建監理委員会資料目録 解説 東京大学経済学部図書館 2004
- ・ 11. 証券処理協議会資料 企業別資料編 解説 雄松堂 2006
- ・ 12. 証券処理協議会資料 協議会資料編 はしがき 雄松堂 2006
- ・ 13. 横浜正金銀行資料目録 東京大学経済学部図書館資料室 2008
- ・ などを参照

1. 社会科学の実証研究と資料

- ・ 統計学は大量観察により社会の真実を発見する科学。
- ・ 「数字は黙して語らない、この数字を口を開いて社会の真実を語るのが統計的研究」
- ・ 統計学論ではなく、統計学的実証研究を
- ・ 「最善の事実を尽くして最良の統計を作るのは統計家の任務。統計学者の任務は、統計を材料とし、これに工夫を加えて社会的真理を発見すること」
- ・ この言葉は、統計家をアーキビストに置き換えることができる。

2. 資料を探す——個人的に

- ・ テーマに沿って、図書館、文書館、史料館、企業等を探索する。
 - 2次文献に関するライブラリアンの役割
 - ・ テーマに関連する論文や書籍を探す手助け
 - ・ その後の探索方法を示唆する——芋づる式に見つけることの有用性
 - 1次資料に関するアーキビスト的役割
 - ・ 資料の所在情報の検索
 - ・ 公文書館や企業史料館

2. 資料を探す――個人的に

- 乏しい官庁・企業等の一次資料保存意識とアーカイブ能力
 - 研究者の要求通りの資料があることはほとんどない。
 - 資料探すのは足で探す。
- 筆写からマイクロフィルムへ、そしてデジタルカメラの画像に
 - 資料の複写を作る手法の進歩――デジタルカメラの有用性

3. 資料を集める――組織的に

- アンテナを張り巡らす。
- A. 研究グループの収集資料を相互利用可能な形に工夫する
 - 産業金融史研究、南山城研究会の試み
 - ・ これらの研究では研究グループの収集した資料が最終的にとりまとめられて、図書館にアーカイブされている。それによって後続の研究者の利用が可能となる。
 - 組織の中に収拾して活かすことのできる資料がある。
 - ・ 地方自治体や中央政府の活動などに参加している先生方の部屋には資料の宝箱がある。――国鉄再建監理委員会の資料の例

3. 資料を集める――組織的に

- アンテナを張り巡らす。
- 廃棄等の資料の受贈を受ける
 - 経団連からの石川一郎文書
 - 日本工業倶楽部、東洋経済、ダイヤモンド社からの営業報告書
 - 東京三菱銀行からの横浜正金銀行資料
 - 大蔵省からの照会――閉鎖機関整理委員会資料
 - 山一証券の精算事務からの山一証券資料

4. 資料を整理する

- 研究者の協力
 - 歴史などの資料が必要とされる研究分野の研究者はどの大学にもいる。
 - 日本史の研究室では、地域の保存資料を学部学生の実習として行う研究習慣がある
- 資金の確保
 - 公的資金に応募する
 - 寄贈・寄託先から得る
 - 公開を期待する事業者との協力関係を探る
- 目録の整備
 - 簡明な目録をつくり、デジタル情報で公開する。冊子体目録は作り直すことが難しい。目録は、常時「工事中」でよい。
 - 分類や形式にこだわる手間は省いても良い。

5. 資料を公開する

- 大学図書館などの専門図書館の横断的な協力関係
 - それぞれの試みを学び合う
- J-DAC(ジャパンデジタルアーカイブ)の試み



6. おわりに

- ――資料を利用する者からもとめられるもの
- 学生たちのニーズ 二次文献への案内から
- 院生・教員たちのニーズに基づく収集を組織の資産に